

# 久米島の鳥類について

The Birds of Kume Island, the Ryukyu archipelago.

嵩原建二・久貝勝盛・瀬名波任

## はじめに

沖縄本島南部の西方、約100km洋上に久米島がある。これまで久米島における鳥類の記録については、古くはKuroda (1925)の研究があり、また岡田ら (1959)によってまとめられた沖縄産動物目録の中でエゾヒヨドリやルリビタキなど10種が報告されている。その後は1973年に本格的な生物調査が実施され、池原 (1974)によって42種の鳥類が記録され、この記録が鳥類についてのまとまった報告となっている。しかしながら、鳥類相についての検討はなされず、今後確認種数が増える可能性を指摘するにとどまっている。

筆者らは1991年2月から1994年12月までに延べ10回にわたり、久米島を訪れる機会に恵まれ、また久米島総合調査の一環として、久米島の鳥類相を明らかにするため島内各地で鳥類調査を行った。その結果、これまでの鳥類記録を整理して、暫定的に鳥類目録を作成した。また、新たに生息分布が確認された種を含む若干の知見を得たので報告する。

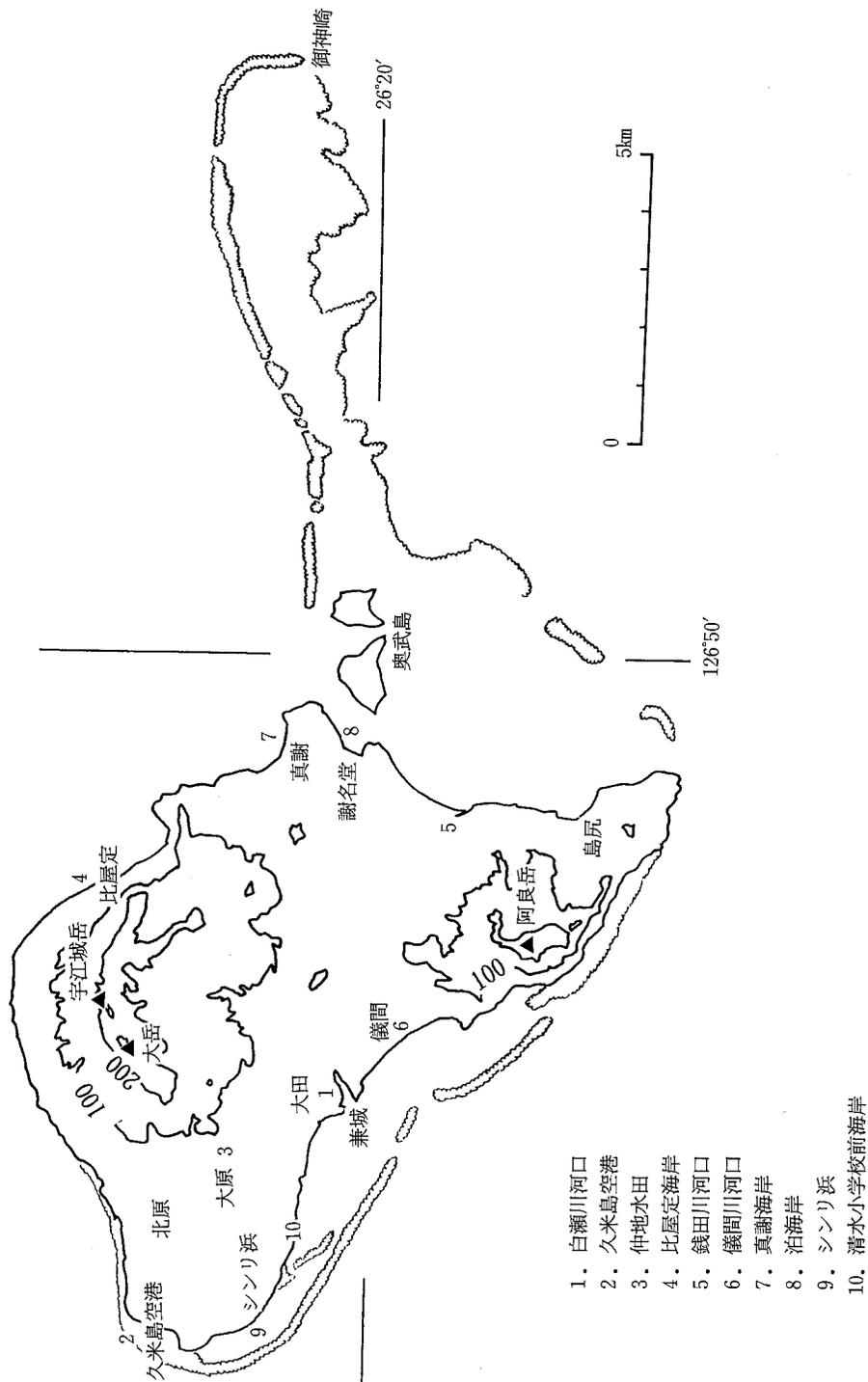
本報告をまとめるにあたり、調査に便宜を図って戴いた仲里村教育委員会及び同教育委員会の大田喜功氏 (現村企画課)、具志川村教育委員会及び同委員会の山城英明氏 (現消防組合)と中根聰氏に厚く御礼申し上げる。また貴重な鳥類情報をよせて下さった仲里村儀間の故仲吉列雄氏、沖縄野鳥研究会の比嘉邦昭氏と大城亀信氏の両氏、久米島総合調査自然担当調査員の方々に厚く感謝申し上げます。さらに原稿の整理を手伝って頂いた宮平真由美嬢にもお礼申し上げます。

## 調査地概要

### [地理的位置と気象]

久米島は沖縄本島南部、那覇市の西方洋上に所在し、位置は東経126°42'~126°50'、北緯26°17'~26°24'の範囲にある(図1)。周囲は約48kmで、島の東西は約11km、南北は約12kmあり、島面積は約59km<sup>2</sup>である。人口は具志川村と仲里村の両村合わせて約11,000人である。

久米島測候所 (1961年から1990年の統計)によると、年平均気温は22.4°Cで、平均降水量は約2300mmである。このことから久米島は多雨な亜熱帯気候とされる。



1. 白瀬川河口
2. 久米島空港
3. 仲地水田
4. 比屋定海岸
5. 鏡田川河口
6. 儀間川河口
7. 真謝海岸
8. 泊海岸
9. シンリ浜
10. 清水小学校前海岸

図1 久米島の位置と地形概観図 (中村ら、1981を改変)

### [地形と地質]

地形的には島の北西部に宇江城岳(標高309m)がそびえ、南西方向に連なって島最高峰の大岳(標高326m)などの山塊が見られる。宇江城岳南側は海岸に向かって次第に低くなる台地が連続し、北側は階段状の狭い台地をなしている(西島, 1975)。一方、島南部の島尻地域には独立的に阿良岳(287m)がそびえ、ここを中心とする丘陵地域が広がっている。

河川は宇江城岳を源流域とする長さ5.3kmの白瀬川が久米島における最長の河川で、他には宇江城岳や阿良岳に隣接する丘陵地域に源流部をもつ儀間川(4.2km)や銭田川(4.7km)がある。また阿良岳を源流域とする島尻川が島の東方に流れ出る。

地質は島の大部分が古期琉球火山岩区に属する第三紀中新統から鮮新統の安山岩質火山岩からなる(中村・木庭, 1981)。しかし、島南西部の北原や大原などには第四紀更新統の琉球石灰岩地域が広がり、ヤジャーガマなどの鍾乳洞の発達も見られる。また、海岸低地(特に島の北側から西側)には「イリビシ石灰岩」とよばれる第四紀完新統の離水した礁原がみられる。

### [植生]

久米島の植物については、初島・天野(1974)によって、帰化種も含め148科749種12変種が確認されている。この中で琉球列島では久米島だけに分布する種や久米島と他のわずかな島にしか分布しないような注目すべき植物として、リュウキュウヒメハギやカワラナデシコなど10種が上げられている。

植生については、新納ら(1974)によって、現存植生図が作成され、久米島の自然植生として山地森林地域ではスタシイ群落を認め、また、石灰岩を母岩とする大原や北原およびその海岸線の低地部からオオバギークロツグ群落等が識別されている。

さらに、海岸植生としては、イソフサギ群落、イソマツ群落、ミズガンビ群落など11群落を識別し、風衝群落としてはガジマル群落とオキナワシャリンバイーバケイスゲ群落の2群落が認めている。さらに河川河口部にはマングローブ群落の1群落を認めている。

## 鳥類調査の概要

調査概要については、表1および表2に分けて示したように、1993年4月から1994年12月までの2年間にわたって行われた県立博物館総合調査の一環として鳥類調査が実地された。また、調査資料の一部については、過去に調査した未発表の資料も活用した。したがって、調査期間は1991年2月から1994年12月までの3年10ヶ月におよび、調査日は延べ28日であった。

調査方法は、島内の県道や農道および林道をくまなく車で走り、車上からのロードセンサス法と、時速10km以下のスピードで夜間車上ロードセンサス法による鳥類調査を実地し

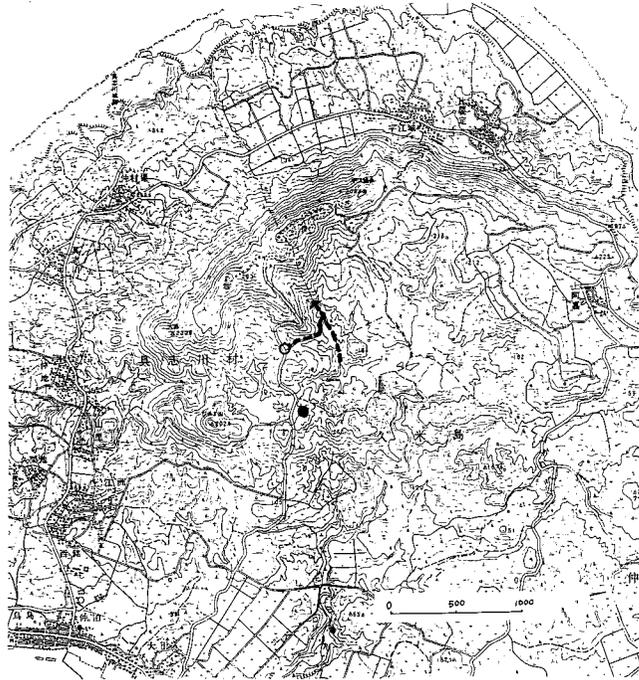


図2 宇江城岳周辺における調査地

- ：定点調査地（グルマ山園地）
  - ：ラインのはじまり →：ラインの終わり
- （国土地理院発行、1/25000地形図、久米島を改変）

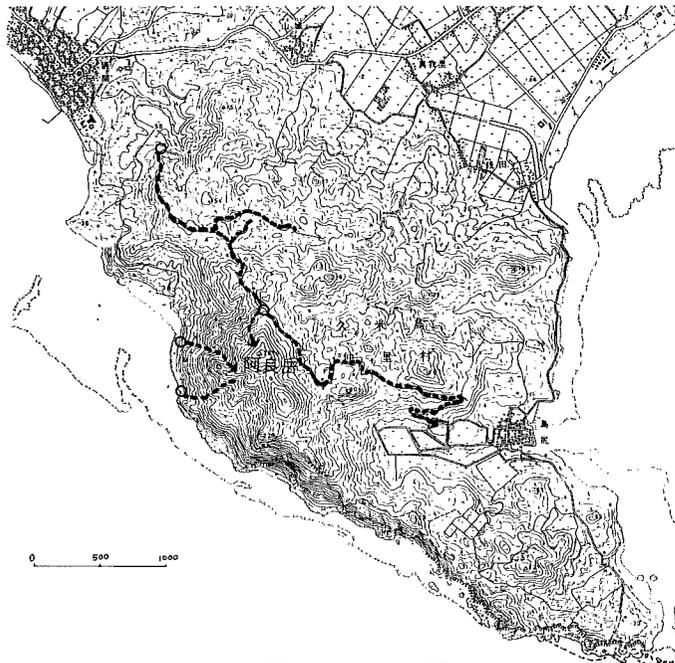


図3 阿良岳周辺における調査ライン

- ：ラインのはじまり →：ラインの終わり
- （国土地理院発行、1/25000地形図、久米島南部を改変）

た。特に宇江城岳、阿良岳などの森林地域においては林内での歩行によるロードセンス及び夜間車上ロードセンスにより、ライン幅100m (片側50m) の範囲で目撃及び鳴き声で確認される鳥類を記録した。

ワシタカ類のアカハラダカについては、9月初旬に南下する個体数のカウントを行うため、宇江城岳近くのダルマ山園地(公園)で早朝30分から2時間程度の定点調査を行った(図2)。また、白瀬川河口や仲地、泊干瀉などでも30分の定点調査を行った。

調査地の範囲としては、久米島及び久米島に橋梁でつながり隣接した奥武島の両島全体及びその周辺海域をその調査範囲とした。また島内における河川や森林地域などの各環境ごとの鳥類の出現状況を見るため、重点的に調査する地域を設定した。

その調査地域としては、低地部では白瀬川河口、久米島空港周辺及び隣接する海岸道路、銭田川河口、泊海岸、真謝海岸、比屋定海岸、シンリ浜、清水小学校前の海岸、儀間川河口、奥武島などであった(図1)。

山地森林地域としては、宇江城岳周辺及び白瀬川上流部、阿良岳及びその周辺(阿良岳林道)、ダルマ山園地公園、上江洲1号・2号ダム周辺などであった(図2、図3)。

表1 鳥類調査概要

調査期日	天気	調査時間	主な調査地	主な調査方法(調査距離)
1991年2月1日	晴	11:00-12:00	白瀬川上流・山里	林内ラインセンス
1991年8月29日	晴	11:20-12:00	白瀬川上流	林内ラインセンス
1991年8月29日	晴	14:20-14:50	奥武島周辺・泊海岸	定点調査
1991年8月30日	晴	9:50-10:18	白瀬川上流・阿良浜	林内ラインセンス
1991年9月1日	晴	5:00-7:00	白瀬川上流・上江洲ダム	林内ラインセンス
1991年9月1日	晴	7:30-9:40	白瀬川河口・具志川城跡	定点調査
1991年11月26日	晴	11:20-12:30	白瀬川河口・仲地	定点調査
1991年11月27日	晴	8:50-17:40	仲地・タチジャミ・銭田川	海岸ラインセンス
1992年7月22日	晴	14:10-17:00	宇江城岳・大田周辺	林内ラインセンス
1992年7月23日	晴	5:02-7:30	阿良岳	林内ラインセンス調査
1992年7月23日	晴	10:00-12:20	宇江城岳・白瀬川上流	林内ラインセンス調査
1992年7月24日	晴	8:25-10:20	阿良岳(南斜面)	林内ラインセンス調査
1992年7月24日	晴	15:17-18:40	阿良岳(南斜面)	林内ラインセンス調査
1992年7月25日	晴	8:57-10:53	阿良岳(東斜面)	林内ラインセンス調査
1992年7月25日	晴	15:56-16:20	謝名堂・泊海岸干瀉	定点調査
1992年7月26日	晴	8:30-16:40	宇江城岳・白瀬川上流	林内ラインセンス調査
1992年7月27日	晴	8:30-16:56	宇江城岳・白瀬川上流	林内ラインセンス調査
1992年7月28日	晴	8:30-10:00	宇江城岳・白瀬川上流	林内ラインセンス調査
1992年7月28日	晴	15:17-15:40	謝名堂海岸干瀉	定点調査
1992年7月28日	晴	16:00-17:00	宇江城岳・白瀬川上流	林内ラインセンス調査
1992年7月28日	晴	20:20-21:00	宇江城岳・白瀬川上流	夜間調査
1993年3月24日	曇	終日	全島	車上ラインセンス調査
1993年3月25日	曇	終日	全島	車上ラインセンス調査
1993年3月26日	曇	終日	全島	車上ラインセンス調査

表1 続き

調査期日	天気	調査時間	主な調査地	主な調査方法(調査距離)
1993年3月27日	曇	終日	全島	車上ラインセンサス調査
1993年9月10日	晴	13:52-15:20	〃	〃
1993年9月11日	晴	9:23-14:30	〃	〃
1993年9月12日	晴	7:32-11:35	〃 (ダルマ山園地)	〃
1994年3月16日	曇	終日	〃	〃
1994年3月17日	大雨	終日	〃	〃
1994年3月18日	曇	終日	〃	〃
1994年9月15日	晴	〃	〃	〃
1994年9月16日	晴	〃	〃 (ダルマ山園地)	〃
1994年9月17日	晴	〃	〃 ( 〃 )	〃
1994年12月26日	晴	11:30-22:00	〃	〃
1994年12月27日	小雨	7:30-22:00	〃	〃

表2 夜間鳥類調査概要

調査期日	天気	調査時間	主な調査地	主な調査方法(距離km)
1991年11月26日	小雨	19:45-21:00	宇江城岳・阿良岳林道	車上ラインセンサス(7.4)
1992年7月22日	晴	20:00-22:30	宇江城岳周辺林道	車上ラインセンサス
1992年7月25日	晴	20:00-24:00	宇江城岳・阿良岳林道	車上及び林内ラインセンサス
1992年7月28日	晴	20:20-21:00	宇江城岳・白瀬川上流	車上及び林内ラインセンサス
1993年3月24日	晴	20:55-21:27	阿良岳林道	車上ラインセンサス(6.0)
1993年9月10日	晴	20:25-21:47	宇江城岳・阿良林道	車上ラインセンサス(6.0)
1993年9月11日	晴	21:00-23:16	宇江城岳・阿良林道	車上及び林内ラインセンサス(6.0)
1994年12月26日	晴	20:00-22:30	阿良岳林道・儀間川	車上ラインセンサス(6.5)
1994年12月27日	晴	19:30-23:30	阿良岳林道・宇江城岳	車上ラインセンサス(6.5)

## 調査結果と考察

### 1. 久米島の鳥類相について

今回の鳥類調査の結果、久米島及び奥武島から約80種の鳥類が記録され、その中にはこれまでに報告にない68種の野鳥が新たに記録された。したがって、今回の調査記録とこれまでに記録のある種を総合して「久米島の鳥類目録」に示したように、14目36科115種(亜種及び帰化鳥を含む)の鳥類が記録されたことになる。その内訳は留鳥20種、渡り鳥94種(夏鳥7種、旅鳥及び冬鳥83種、迷鳥4種)、帰化鳥1種となった。このことから留鳥の種数は全体比で約17%(帰化種を除く)とわずかで、渡り鳥が主体の鳥相である。こうした傾向は県内における一般的な傾向であり、久米島でも同様な状況であるものと考えられた。

以下留鳥及び渡り鳥の出現状況などについて述べる。

#### 1) 留鳥の生息状況について

確認された20種の留鳥の出現状況を見ると、県内でごく普通種であるメジロ、ヒヨドリ、キジバト、ウグイス、リュウキュウツバメ、セッカ、スズメ、ハシブトガラスなどは島内のいたるところで目撃された。また水田や河川、河口部などの水辺の環境ではカイツブリ、バン、リュウキュウヨシゴイ、カワセミなどが目撃されたが、確認できなかった種はシロハラクイナやヒクイナなどのクイナ科の鳥であった。

カワセミについては、池原（1976）によって白瀬川河口での記録がみられるが、今度の調査では銭田川と儀間川（佐藤文保，私信）の2カ所で目撃された。したがって、久米島ではこれらの河川にわずかな個体群が生息しているものと思われる。

リュウキュウヨシゴイは仲地の水田で目撃され、それ以外の場所では目撃することができなかったので、個体数はそう多くないであろう。

島の西側や北側に広がる海岸低地の離水した礁原では、シロチドリやイソヒヨドリ、ウグイスなど、農耕地ではミフウズラ、セッカ、メジロ、キジバトなどが確認された。また宇江城岳や阿良岳のような森林環境ではカラスバト、キジバト、メジロ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが目撃されたが、沖縄島などで普通に見られるズアカアオバト、シジュウカラ、リュウキュウサンショウクイ、コゲラ、ヤマガラなどの5種は確認することができなかった。

夜行性の留鳥としては、後述するように夜間調査において、フクロウ科のコノハズクとアオバズクが阿良岳林道や宇江城岳周辺で確認されたが、オオコノハズクは確認されなかった。これら以外に夜行性のヤマシギ類として、琉球列島の固有種であるアマミヤマシギが久米島から初めて確認された。本種については、分布や出現率等について、検討を加えまとめて後述する。

池原（1974）は、久米島からメジロ、ヒヨドリなど7種の留鳥を報告し、また比嘉ら（1994）は13種を記録している。今度の調査で確認された留鳥は20種であったので、留鳥の確認種数は増加している。しかしながら、表4に示したように、島の成り立ちが古くイタジイ林を主体とした森林植生を有する沖縄島（34種）や八重山諸島（35種）に比べると少く、宮古諸島の21種に近い留鳥数である。このことは前述したように森林地域に生息するシジュウカラ、ヤマガラ、ズアカアオバト、リュウキュウサンショウクイ、コゲラと低地に生息するシロハラクイナ、ヒクイナなどの確認ができなかったことによる。したがって、久米島ではシジュウカラ科、キツツキ科、サンショウクイ科などに属する県内では留鳥とされる種を欠いている鳥類相であると思われる。しかしながら、これら森林性の未確認鳥類については、これらの種が久米島にもともと分布していなかったのか、あるいは分布していたが森林の改変等によりすでに激減してしまったのかを確認することには資料が乏しく、詳細に言及できない。

これら未確認種の中で、低地の水辺などに生息するヒクイナについては本種が警戒心が強いため、開けた場所にてでくことは少ないので、生息してはいるが目撃されなかった可能性がある。しかしながら、シロハラクイナについては、確認することができなかったので久米島には生息分布を広げていないものと考えられる。

なお、ここで扱う留鳥の中にはアマミヤマシギ、シロチドリなどのように繁殖の確認をしてはいないが、留鳥として扱った種も含まれている。また、ツミとカルガモについては、冬季だけの確認であるため冬鳥としての渡来であることが考えられ、留鳥から除外した種もある。さらに県内では留鳥に扱われているが、久米島で繁殖の可能性は低いと考えられるムラサキサギはまれな冬鳥として扱った。したがって、今後留鳥の種数は若干変動するものと思われる。

表3 各島地域別の留鳥種数の比較

調査地域	留鳥種数	全体比(%)	総確認種数	備考・引用文献
沖 縄 島	34	14.0	242	与那城他 (1984)
宮 古 諸 島	21	9.3	226	久貝・山本 (1981)
八重山諸島	35	11.9	294	八重山野鳥の会 (1983)
久 米 島	20	17.5	114	帰化種1種をのぞく

## 2) 渡来種の生息状況について

### (1) 低地部河川や海岸環境等における生息状況

#### イ. サギ類

白瀬川や銭田川、儀間川などの河川沿いではコサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、アマサギ、ゴイサギなど9種が確認されたが、これらの種はほとんどが旅鳥および冬鳥として、河川や海岸、干潟などに渡来してくる鳥類である。これらの種の中には八重山地方では留鳥として生息するムラサキサギが確認（銭田川、1994年12月26日、亜成鳥1羽）された。本種はおそらく久米島に冬鳥として小数が渡来してくるものと考えられる。また、他にはまれな渡り鳥であるアカガシラサギの儀間川における確認（大城亀信私信）もあり興味深い。

#### ロ. ガンカモ類

仲地の水田、銭田川、儀間川、島尻ダムなどでコガモ、カルガモ、マガモ、オナガガモ、スズガモ、キンクロハジロの6種が確認された。これらの種は冬季に県内各地の河川や海岸、干潟、湖沼などにふつうに渡来するカモ類である。この中でカルガモについては、県内では留鳥とされているが、久米島では冬季に確認されてい

るので、おそらく冬鳥としての渡来であろう。

興味深い記録としては過去に、コハクチョウ（仲吉列雄私信）が確認されている。したがって、ガンカモ類は7種確認されたことになる。

#### ハ. シギ・チドリ類

チドリ科ではコチドリ、ムナグロ、メダイチドリ、タゲリなど9種、シギ科ではクサシギ、キアシシギ、ダイシャクシギ、キョウジョシギなど16種が仲地水田、謝名堂海岸、真謝海岸、久米島空港周辺、儀間川、泊海岸などの地域で目撃された。

これらのほとんどは渡来してきて生息するが、渡来地となる真謝海岸や泊海岸は年々埋立が進行し、生息地の減少傾向がみられる。

#### ニ. クイナ類

渡来種としてはオオバン1種のみが銭田川で目撃された。本種は数少ない冬鳥として県内各地の湖沼・河川に渡来する。県内ではヒメクイナ、ツルクイナなど5種のクイナ類が渡来するとされているので（沖縄野鳥研究会，1993）、今後これらのクイナ類の渡来する可能性もあろう。

#### (2) 低地部の海岸林や農耕地・草原、山地森林環境等における出現状況

農耕地や山地森林地域とその林縁に渡来する渡り鳥としては、夏鳥としてサンコウチョウ、アカショウビン、ホトトギスの3種が渡来し、秋季から冬季にはヒタキ科、ツグミ亜科のシロハラ、アカハラ、ジョウビタキ、エゾビタキ、アカヒゲの一種、オジロビタキなど6種、ホオジロ科ではアオジ、クロジ、ミヤマホオジロ、カシラダカなど4種が確認されている。この中で秋季に天然記念物のアカヒゲの一種が初確認されたことには興味深いものがある。なお、本種については渡りの問題も含めて後述する。

海岸近くの林縁やモクマオウ林、草原などでは、セキレイ科のハクセキレイとキセキレイ、ホオジロハクセキレイ、マジロタヒバリ、ムネアカタヒバリの5種（1亜種含む）、ツグミ亜科ではツグミ、ハチジョウツグミの2種（1亜種含む）、ムクドリ科ではムクドリ、ホシムクドリの2種、アトリ科のマヒワ、アトリ、シメの3種、そしてヤツガシラ科のヤツガシラなどが確認された。この中でアトリとホシムクドリについては県内でも記録が少なく、特筆すべき記録であろう。

ワシタカ類ではチゴハヤブサ、ミサゴ、アカハラダカ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、サシバ、ノスリの7種が確認され、このうちサシバを除く6種については久米島から初確認であった。なお、これらのワシタカ類については渡りの状況も含めて、別の報文とする。

### (3) 周辺海域及び海岸における生息状況

県内には夏季にアジサシ類の渡来がみられるが、久米島周辺の近海ではベニアジサシ、オオミズナギドリなどがトンパーラ付近で目撃され、エリグロアジサシとコアジサシが奥武島近くの干潟で目撃された。したがって、これらの種は久米島周辺の離島や岩礁、埋め立て地等で繁殖している可能性がある。

また、冬季にはウミウが南海岸の波間に漂っていたり、ノッチの見られる離れ岩に40から50羽集まって越冬しているのが目撃された。さらに真謝海岸ではまれに渡来するウミネコが目撃された。従って、これらの種は県内では冬鳥とされるので同地域で越冬しているものと思われる。

### (4) 夜間調査で出現した鳥類

夜行性の鳥類を確認するため、宇江城岳や阿良岳などの森林地域を中心に夜間調査を実地し、表4のように留鳥のコノハズクや渡り鳥のアカショウビン、ヤマシギ、シロハラなど12種を確認した。しかしながら、県内で留鳥とされるオオコハズクは確認できなかった。夜間調査で出現した昼行性の鳥類については、そのねぐらを観察した結果である。したがって、夜行性の鳥類確認についてはおおよそカバーしているものと思われ、留鳥としてはコノハズク、アオバズク、アマミヤマシギの3種であった。

表4 夜間鳥類調査結果

調査期日	主な調査地	確認鳥類(個体数)	備考
1991年11月26日	宇江城岳・阿良岳林道	コノハズク(1)アオバズク(1)ヤマシギ(2)	
1992年7月22日	宇江城岳周辺林道	コノハズク(5)キジバト(2)メジロ(2)	
1992年7月25日	宇江城岳・阿良岳林道	メジロ(2)アカショウビン(1)キジバト(1)	
1992年7月28日	宇江城岳・白瀬川上流	確認なし	
1993年3月24日	阿良岳林道	ヤマシギ(2)	
1993年9月10日	宇江城岳・阿良岳林道	キジバト(1)	
1993年9月11日	〃	メジロ(1)	
1994年12月26日	阿良岳林道	ヤマシギ(13)アマミヤマシギ(2)シロハラ(1)ヒヨドリ(1)	
1994年12月27日	儀間川	ゴイサギ(1)カルガモ(1)	
1994年12月27日	阿良岳林道	ヤマシギ(9)アマミヤマシギ(1)	

## 2. 分布や記録的に興味深い鳥類について

### 1) アマミヤマシギ *Scolopax mira*

表6に示したように、1994年12月26日と翌12月27日の両日、阿良岳林道における夜間ラインセンサス調査(図3)によって、1から2個体がヤマシギと混在して確認された(写真1)。その出現状況については、表5に示したように、5.5kmの林道夜間ラインセ

ンサスにおける1 kmあたりの出現率 (N/km) を算定して示した。その結果、アマミヤマシギの出現率は0.36から0.18 (平均0.27) となり、ヤマシギより出現率は低かった。

本種は南西諸島の特産種としてこれまで奄美大島・徳之島・沖縄島北部・渡嘉敷島のみで生息することが知られ (Mark, 1991)、環境庁 (1991) の日本版レットデータブックによると「絶滅危惧種」にランクされている種である。しかし、今度の調査によって久米島で初めて生息確認され、その生息分布域が広がることになる。しかしながら、冬季だけの生息確認であり、久米島に定着し留鳥として生息しているかどうかは不明である。また、表4に示したように夏季の夜間調査では確認することができず、冬季にヤマシギと混在して生息するので、ヤマシギと同様に渡りを行っている可能性も考えられる。したがって、今後調査を継続してして繁殖の有無を確認することやバンディングして渡りの有無を確認する必要がある。

なお、本種は1994年2月に沖縄県指定の天然記念物となり、保護の手がさしのべられることになった。

表5 阿良岳におけるアマミヤマシギの出現状況

調査期日	調査時間	天気	調査距離 (km)	個体数 (羽)		出現率 (N/km)	
				アマミヤマシギ	ヤマシギ	アマミヤマシギ	ヤマシギ
1994/12/26	19:40-20:45	晴	5.5	2	13	0.36	2.36
1994/12/27	19:46-20:50	晴	5.5	1	9	0.18	1.64

### 2) ムラサキサギ *Ardea purpurea manilensis*

1993年12月26日に銭田川で若鳥1羽 (写真2) が目撃された。本種の県内における分布は、八重山諸島以南に留鳥として生息しているの、久米島にはまれな冬鳥として渡来するものと思われる。なお、繁殖地である八重山諸島以外では、宮古島、沖縄島、渡嘉敷島などにもまれに渡来記録が見られる (沖縄野鳥研究会, 1993)。また北海道や本州、四国、九州など本土でもまれな旅鳥及び冬鳥として確認されている (日本鳥学会, 1974)。

### 3) ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*

1993年12月26日に謝名堂にある野球場の草地でムクドリ40羽余りの群れの中に1羽が混じっていた (写真3)。本種は県内各地でまれな迷鳥として渡来し、沖縄島、伊江島、石垣島、南大東島 (未発表) などで記録されている。今回の記録は久米島における初めての記録であろう。

#### 4) タゲリ *Vanellus vanellus*

1993年12月26日に謝名堂の野球場草地でムナグロやムクドリの群れと一緒に採餌する2個体を目撃した(写真4)。また同日、真謝海岸でも1個体が目撃された。

本種は数少ない冬鳥として、県内各地の水田や草地などに渡来する。

#### 5) アカヒゲ *Erithacus komadori* の一種

1994年9月にダルマ山園地公園で♀1個体が目撃されている。本種は琉球列島の固有種で、奄美諸島以北にアカヒゲ(基亜種) *Erithacus komadori komadori* の1亜種、県内では沖縄島及び周辺離島に留鳥として生息するホントウアカヒゲ *E. k. namiyei* と先島諸島にウスアカヒゲ *E. k. subrufa* の2亜種が生息するとされる(日本鳥学会, 1974)。今回確認された種は♀の個体であったので、どの亜種に該当するか同定が困難である。しかしながら、川路ら(1989)によって、奄美諸島に生息する亜種アカヒゲが冬季に渡りをするのが指摘され、沖縄島北部においてもしばしば本亜種の目撃記録がみられる(髙原, 1990)。また、アカヒゲの渡りについては、森岡(1990)はトカラ列島以北のウスアカヒゲとアカヒゲを夏鳥であると推論し、冬季に奄美諸島以南で越冬する可能性を指摘して、さらにウスアカヒゲは屋久島以北で繁殖しているある個体群であろうとする見解もある。

いずれにせよ今回の目撃は秋季における久米島での初めての確認例であり、留鳥としての確認ではないと思われるので、川路ら(1989)及び森岡(1990)が指摘したようにアカヒゲの渡りを支持するものと思われる。

#### 6) ヤツガシラ *Upapa epops saturata* (写真5)

1994年3年17日に具志川村総合グラウンドで4羽、北原で2羽、シンリ浜で2羽、西銘で1羽、儀間で2羽の合計11羽が目撃された。これだけの個体数が確認された例は県内ではおそらく初めての記録であろう。

本種は世界に1属1種の珍鳥とされ、個体数はかなり少ないとされる。県内では春季に琉球列島を通過する際に、各地で1~2個体の観察記録があるまれな旅鳥である。今度の調査では1994年3月に確認され、また前年の1993年3月25日にも島尻の集落内で2羽目撃された。したがって、久米島が本種の恒常的な渡りのルートとなっている可能性がある。

#### 7) カラスバト *Columba janthina janthina*

白瀬川上流域の宇江城岳や島尻川上流の阿良岳、比屋定の海岸林などの森林地域3箇所を確認された。おそらく山地森林地域を中心に繁殖・生息しているものと思われる。

本種は伊豆諸島や小笠原諸島、琉球列島などの島嶼を中心に生息し、いくつかの亜種にわけられている(日本鳥学会, 1974)。

8) オオチドリ *Charadrius asiaticus veredus*

久米島空港草地でムナグロの群れの中に混じって1羽確認された。県内では沖縄島や与那国島、宮古島、伊江島などでまれに確認されているまれな旅鳥である。

9) サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divarientus*

久米島では県内のふつうに生息する留鳥であるリュウキュウサンショウクイ *P. d. tegimae* は確認できなかったが、冬季に渡来してくるものと考えられるサンショウクイが、1994年12月27日に仲地の水田近くで1羽目撃された。

### 3. 久米島における貴重種等の生息状況について

ここで扱う貴重種としては、(1)その地域に固有な種、(2)琉球列島に固有な種、(3)国及び県指定天然記念物、(4)環境庁(1991)によって示された絶滅危惧種や危急種等にランクづけられた保護すべき種をその範囲とした。

調査の結果、表6に示したように、(1)の該当種がなく、(2)の該当種はアカヒゲ、アマミヤマシギの2種であった。また、(3)に該当する種としては、カラスバト、アカヒゲ、コウノトリ、アマミヤマシギの4種が確認された。この中で留鳥はカラスバトとアマミヤマシギの2種であり、それ以外は渡来種である。

(4)のランクづけによる絶滅危惧種としては、前述の天然記念物該当種のコウノトリ、アマミヤマシギに一致し、その他危急種や希少種としてはカラスバト、アカヒゲ、チュウサギ、エリグロアジサシ、ミサゴなど10種であった。したがって、こうした貴重種が生息及び渡来する地域として、久米島の自然環境は重要であり、河川や水田などの水辺環境や森林地域の保全を図る必要がある。

表6 久米島における貴重種の確認

種名	特別天然 記念物	天然 記念物	環境庁編(1991)		
			危惧	危急	希少
コウノトリ	◎	・	◎	・	・
カラスバト	・	◎	・	◎	・
アカヒゲ	・	◎	・	◎	・
アマミヤマシギ	・	◎*	◎	・	・
ミサゴ	・	・	・	◎	・
ハヤブサ	・	・	・	◎	・
コアホウドリ	・	・	・	・	◎
コハクチョウ	・	・	・	・	◎
コアジサシ	・	・	・	・	◎
チュウサギ	・	・	・	・	◎
ベニアジサシ	・	・	・	・	◎
エリグロアジサシ	・	・	・	・	◎

\*は1994年2月に沖縄県指定天然記念物となった。

#### 4. 調査地域別の鳥類確認状況

鳥類の確認状況としては一部重複になるが、環境保全や自然観察会等の資料として活用できるように、調査地別に出現した鳥類について、低地部及び山地森林部に分けて概説する。なお、鳥類の出現地や期日等については「久米島の鳥類目録」を参照すること。

##### 1) 低地部海岸及び河川地域

###### (1) 白瀬川河口 (図1)

久米島最大の河川で、宇江城岳(326m)を源流部に5.3kmの長さを持つ。河口部は広く、最近赤土の堆積が認められるが、干潮時に干潟が出現する。河岸近くにわずかにヒルギ類の定着も見られる(写真7)。

ここでは海岸線近くに生息するクロサギや冬季に干潟に渡来するダイサギ、アオサギ、チュウサギ、コサギなどのサギ類の他、ムナグロ、イソシギ、キアシシギなどのシギ・チドリ類が確認された。しかしながら、銭田川や儀間川のようにアシ原やヒメガマなどの湿地性植物が少なく、こうした場所に比べ、目撃される種類数は少ないように思える。

###### (2) 久米島空港周辺 (図1)

島の西側半分を取り囲むように発達した広大な離水した礁原が見られ、空港もその上に築かれている。植生は地を這うようなクサトベラ、イボタクサギ、モンパノキの他、ミズガンピ群落などが見られ、またモクビャッコウ、ミルスベリビユなど典型的な海岸植生がみられる。空港は滑走路を除くとチガヤを主体とした草原になっている(写真8)。

ここでは留鳥のシロチドリ、イソヒヨドリ、ウグイス、セッカ、メジロなどが年中見られる他、冬季にはムナグロ、チュウシャクシギ、ダイサギ、マミジロタヒバリなどの渡り鳥も見られる。ここからはまれな鳥類であるオオチドリも目撃された。

ここで注目すべきことは、本地域ではシロチドリが夏・冬問わず確認できるので、本地域が本種の繁殖地となっている可能性が高い。このことからその繁殖地としての環境保全を図る必要性があり、できるだけ改変をさげ、他の鳥類にとっても風をさけた休息地として利用される海岸植生もそのまま保存していくことが重要であろう。

###### (3) 仲地水田 (図1)

かつて県内では米どころとして知られた証を今に残す水田地域で、唯一の棚田になった水田が見られる(写真9)。

ここでは水辺を利用する留鳥として、クイナ科のバン、サギ類のリウキュウヨシゴイが目撃され、周辺の農耕地や集落ではセッカ、リウキュウツバメ、キジバト、イソヒヨドリなどが目撃された。

旅鳥や冬鳥としての渡り鳥では、シギ・チドリ類のコチドリ、タカブシギ、タシギ、クサシギ、ヒバリシギ、アオアシシギ、サギ類ではチュウサギなどが目撃され、カモ類ではオナガガモ（写真6）が目撃された。また、ワシタカ類ではミサゴ、サシバが見られ、まれな冬鳥であるサンショウクイ科のサンショウクイも目撃された。このことから久米島では水辺を利用する渡り鳥が渡来する数少ない場所のひとつになっている。したがって、本地域は鳥類の重要な渡来地であることと同時に、久米島がかつての水田地帯であったことを示す歴史的にも貴重な場所であり、今後ともに保存が望まれる。

#### (4) 比屋定海岸（図1）

比屋定の集落から北海岸に至る急坂を下ると、農耕地と護岸が構築された海岸線にでる。本地域の海岸線も離水礁原が広がる地域で、空港周辺と同様な海岸低地の植生を持つ環境が見られる。また海岸線沿いにはコンクリート護岸が約1 km近く構築されているが、その内側にオオハマボウを主体とする海岸林が残存し、さらにその内側にはサトウキビ畑が広がっている。

ここではセッカ、ウグイス、イソヒヨドリなどの留鳥の他、シロハラ、アオジ、ジョウビタキ、モズ、ミサゴ、サシバ、イソシギなどの渡り鳥が目撃された。リーフの縁では留鳥のクロサギがしばしば目撃され、冬季にはウミウも見られた。

なお、比屋定集落にある太陽岩近くのしげみでは冬季にオジロビタキが目撃され、周辺森林にはシロハラ、アオジが渡来する。

#### (5) 銭田川河口周辺（図1）

河口部はアシ原になっているが、上流に向うにつれ水面にホテイアオイやパラグラスが一面覆うような景観になる。周辺環境はほとんどがサトウキビを中心とした農耕地である（写真10）。

ここでは水辺を利用する留鳥のバン、カイツブリ、カワセミの他、冬季には冬鳥のオオバン、ダイサギ、アオサギ、コサギ、コガモ、スズガモ、イソシギなどが目撃された。周辺の農耕地やアシの原には他にシロハラ、アオジ、ジョウビタキなど冬鳥が渡来し、セッカ、ウグイスなどの留鳥が生息していた。ここで特筆すべきことは、留鳥のカワセミが確認されたことと、冬鳥（？）のムラサキサギが確認されたことであろう。

なお、隣接する仲里村野球場の草地ではタゲリ、ムクドリ、ホシムクドリ、ムナグロ、ツグミなどの冬鳥が見られた。

#### (6) 儀間川河口及びその周辺（図1）

河口部に小規模なマングローブが見られ、河床部にはヒメガマやパラスラスなどの

湿地性植物が見られる。周辺には発電所、製糖工場があり、儀間の集落及び農耕地に囲まれている環境である。

ここではカルガモ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、クサシギ、タシギ、ハクセキレイ、コガモ、ゴイサギ、アマサギ、コサギなどの水辺を利用する渡り鳥を確認することができた。留鳥ではイソヒヨドリ、セッカ、ハシブトガラス、カワセミ、バン、リュウキュウツバメなども生息し、後背地の農耕地などではミフウズラが見られる。冬季には河口近くでウミウが餌を探していた。

本地域で注目すべきことは、冬鳥の渡来が多くみられることである。また、久米島で唯一まとまったマングローブ林がみられることから、その保全に留意することが重要である。そして、そのことが野鳥を含む河川に生息する生物の保護につながるものと思われる。

#### (7) 真謝海岸 (図1)

海岸線の埋立が進行中で、一部の海岸線が内海状に残されている。しかし、今後も埋立は続くであろう (写真11)。

ここでは海岸の干瀬に冬鳥のウミネコ、ダイサギ、アオサギ、タゲリなどが越冬し、コーラルを敷き詰めた埋立地ではトウネン、メダイチドリ、キョウジョシギ、ハマシギなどが羽を休めていた。また水路などにはハクセキレイやキセキレイなども見られる。留鳥としては、クロサギ、イソヒヨドリ、リュウキュウツバメなどが目撃された。

#### (8) 泊海岸干潟 (図1)

かつて、泊海岸と奥武島の間の小規模な干潟がみられたが、現在では埋立がすすみ、干潟は消失している。

一部の干潟が埋立されずに残っていた1991年から1993年の調査では、ダイシャクシギ、ソリハシシギ、アオアシシギ、キョウジョシギ、ムナグロ、ダイゼン、メダイチドリなど砂泥質の干潟を好む鳥類の渡来が確認された。しかし、今日ではその姿はみられず、1994年12月の調査では、キアシシギ、コサギ、イソシギの3種を確認しただけである。したがって、渡来種の減少傾向が認められる。

なお、隣接する奥武島では、海岸沿いのモクマオウ林にマヒワやモズなどが渡来する。

#### (9) シンリ浜 (図1)

空港滑走路の南側に隣接し、沖合いには島の西側を取りまく離水した礁原がベルト状に発達していて、干潮時には無数の干瀬が出現する。海岸線は砂浜になっているため、海水浴場として利用され、リゾートホテルや海浜公園が設置されている。

ここでは海岸干潟に渡り鳥のムナグロとダイゼンや留鳥のシロチドリなどが目撃さ

れ、リーフ近くではクロサギが目撃された。

海岸林としてのモクマオウ林や海浜公園の草地などではイソヒヨドリ、メジロ、ウグイスが見られ、冬季にはシロハラ、ツグミ、アオジが渡来する。また、春先にはヤツガシラが草地で餌をさがす光景がしばしば見られた。

#### (10) 清水小学校前海岸 (図1)

海岸近くに二重のノッチがあるキノコ岩が見られ、また沖合いには島の西側を取り囲むように発達した離水した礁原が延びており、地形的にも興味深い地域である。

ここでは冬季にキノコ岩に休息する40羽から50羽ほどのウミウの群れが見られるほか、潮が引いた海岸干潟では冬鳥のアオサギ、ダイサギ、ムナグロ、キョウジョシギや留鳥のシロチドリ、クロサギなどがみられる。冬季にはまれに海岸近くの農耕地でチゴハヤブサが出現する他、サシバ、チョウゲンボウなどが見られる。留鳥ではセッカ、リュウキュウツバメなどが生息する。

西方に隣接する具志川村総合グラウンドの草地では、冬季にハクセキレイ、ホオジロハクセキレイ、ツグミなどの他、ヤツガシラの群れを目撃することができた。

## 2) 山地森林部丘陵地域

### (1) 宇江城岳周辺 (図2)

標高326mの宇江城岳の東斜面に広がるイタジイを中心とする常緑広葉樹林地域で、白瀬川の源流部にあたる。この宇江城岳頂上には自衛隊の基地が置かれている。

調査地は白瀬川上流部(源流部)とそこにつながる林道、ダルマ山園地などでおこなった。

ここでは留鳥として、メジロ、ヒヨドリ、キジバト、カラスバト、ハシブトガラス、ウグイスなどが確認され、ダルマ山園地公園では帰化鳥のアミハラを目撃した。また夏季にはサンコウチョウ、アカショウビン、ホトトギスが渡来し、秋季にはアカハラダカやエゾビタキの渡来がみられた。アカハラダカについては、1993年9月12日の早朝定点カウントで1000羽余り記録された。冬季にはここで越冬するシロハラ、アオジなどが目撃された。

夜間調査ではコノハズクとアオバズクが目撃されたが、ヤマシギ類は確認されなかった。

ここで特筆すべきことは、前述したように国指定天然記念物のアカヒゲの一種とカラスバトが確認されたことである。

### (2) 阿良岳周辺 (図3)

島の南東部儀間から島尻地区にいたる山地地域で標高287mの山である。ここには若

いイタジイやウラジロガシなどを中心とする常緑広葉樹林が広がり、儀間から山地を横切るように阿良林道（全長約6 km）が走っている。ここでは南側の海岸線から細い沢の2本をセンサスし、また阿良林道から山頂までの林内のセンサスを実地した。さらに、阿良岳林道を車上からロードセンサスし、夜間調査も実施した（写真12）。

ここでは留鳥として、カラスバト、メジロ、ヒヨドリ、キジバト、ハシブトガラス、ウグイスなどが確認された。また夏季には宇江城岳と同様サンコウチョウ、アカショウビンが渡来し、秋期にはアカハラダカやエゾビタキが確認された。冬期にはここで越冬するシロハラ、サシバ、キセキレイなどが生息し、夜間調査では夜行性のヤマシギ、アオバズクなどが目撃された。また隣接する島尻川上流のダム湖では、カルガモ、オナガガモ、コガモも渡来していた。

ここで特筆すべきことは、前述したようにアマミヤマシギを確認したことである。したがって、天然記念物等の貴重種としてはカラスバトとアマミヤマシギの2種が生息している重要な地域であることから、環境保全に留意する必要がある。

## 5. 調査の課題

今度の鳥類調査ではおおよその鳥類相の把握を中心に調査をすすめてきたので、シロチドリやアマミヤマシギなど留鳥の繁殖確認が不十分であった。そのためには繁殖時期に集中した継続的調査をすすめる必要があるものと思われる。

## 要 約

1. 久米島において1991年から1994年にかけて鳥類調査を行い、これまでの調査記録と合わせて14目36科115種（亜種及び帰化鳥含む）の鳥類目録を作成した。その内訳は留鳥20種、渡り鳥94種（夏鳥7種、旅鳥及び冬鳥が83種、迷鳥4種）帰化鳥1種となった。
2. 久米島で確認された留鳥は、全体比が約18%（帰化鳥除く）と少なく、シジュウカラ科、サンショウクイ科、キツツキ科などに属する県内では留鳥とされる種を欠き、渡り鳥を主体とした鳥相であった。
3. 確認された鳥類の中では、特筆すべきこととして琉球列島の固有種であるアマミヤマシギの生息が初めて確認され、その出現率（N/km）は平均0.27であった。また他にはムラサキサギ、ホシムクドリ、オオチドリなどまれな鳥類の渡来も多数確認された。

## 〈引用文献〉

- 比嘉展寿・前考浩・城間恒宏・江口克之・知念満・喜納幹雄・平嶋健太郎・古川貴哉・真栄康弘. 1994. 沖縄島周辺における鳥類の島嶼生態学的研究・沖縄島嶼研究(12)11-24.
- 初島住彦・天野鉄夫. 1974. 久米島の植物. 久米島県立自然公園候補地学術調査報告. p. 11-39. 沖縄県.
- 池原貞雄. 1974. 久米島の陸上脊椎動物. 久米島県立自然公園候補地学術調査報告. p.89-89. 沖縄県.
- 久貝勝盛・山本晃. 1981. 宮古諸島の鳥類目録. 沖生研究会誌第14号. p.15-28. 沖縄生物教育研究会.
- 環境庁. 1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—脊椎動物編, 330pp. 日本野性生物研究センター
- KURODA.N. 1925. A contribution to the knowlege of the Avifauna of the Riukiu Islands and the vicinity. Publ. author. Tokyo.
- 川路則友・樋口広芳. 1989. アカヒゲ *Erithacus komadori* の分布ならびに亜種の問題について. 昭和63年度環境庁委託調査特殊鳥類調査. p.71-88.
- 森岡弘之. 1990. トカラ列島の繁殖鳥類とその起源. 国立科学博物館専報(23) 151-166.
- Mark A.Brazil 1991. THE BIRDS OF JAPAN, CHRISTOPHER HELM,A&C-BLACK.LONDON
- 新納義馬・新城和治. 1974. 久米島の植生, 久米島県立自然公園候補地学術調査報告. p. 41-70. 沖縄県.
- 中村和朗. 1980. 久米島の気候. 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革. p.7-10. 文部省「環境科学」特別研究陸域部門.
- 西島信昇. 1975. 陸水系, 自然保護のためのおきなわの自然. p.64-93. 沖縄県.
- 日本鳥学会. 1974. 日本産鳥類目録第5版. 120pp. 保育社.
- 中村和郎・木庭元晴. 1981. 久米島の地形と気候. 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革(II). p.5-21. 琉球大学島嶼生態系研究会.
- 岡田弥一郎・木場一夫・仲宗根寛. 1959. II, A V E S 鳥網. 沖縄産動物目録. p.5-25. 沖縄生物研究会.
- 沖縄野鳥研究会. 1993. 改訂沖縄県の野鳥. 299pp. 沖縄出版.
- 琉球新報社編. 1983. 奄美・沖縄の鳥類目録, 写真集沖縄の野鳥. 63pp. 琉球新報社
- 髙原建二. 1990. 名護市鳥類目録, 名護やんばるの野鳥. 30pp. 名護博物館.
- 高良鉄夫・黒田長久. 1969. 琉球における未記録種及び稀種. 山階鳥研報(5):5, 47-562.
- 武内和彦. 1980. 久米島の土地利用変化. 琉球列島における島嶼生態系とその人為的変革.

p53-56. 文部省「環境科学」特別研究陸域部門.

与那城義春・久貝勝盛・玉城常雄. 1984. 沖縄の鳥類. 沖縄の生物. p.267-280. 沖縄生物教育研究会.

八重山野鳥の会. 1983. 八重山地方鳥類目録, 10周年記念誌. p.28-38. 八重山野鳥の会.



写真1 アマミヤマシギ  
(1994.12.26, 阿良林道)



写真2 ムラサキサギ  
(1994.12.26, 銭田川河口)



写真3 ホシムクドリ  
(1994.12.26, 仲里村野球場)



写真4 タゲリ  
(1994.12.26, 仲里村野球場)



写真5 ヤツガシラ  
(1994.3.25, 島尻)



写真6 オナガガモ  
(1994.12.27, 仲地水田)

図版1 主な確認鳥類



写真7 白瀬川河口



写真8 仲地水田



写真9 久米島空港周辺

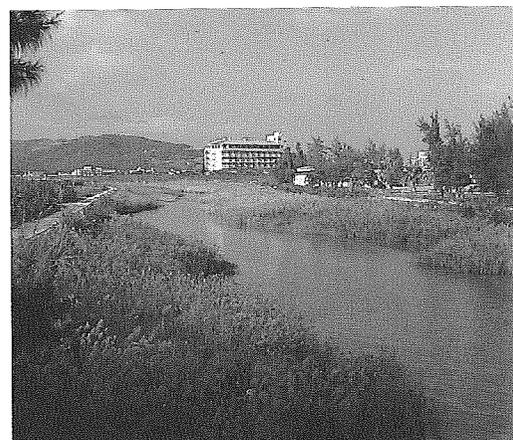


写真10 銭田川河口



写真11 真謝海岸

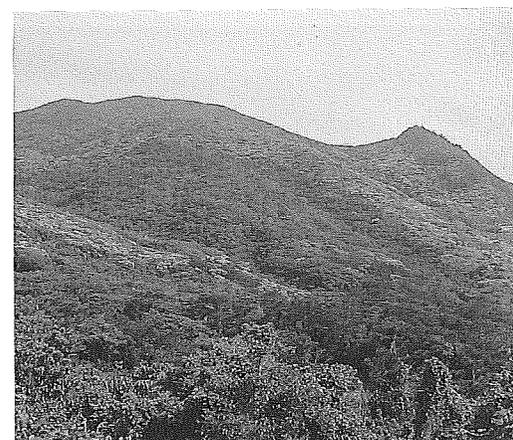


写真12 阿良岳

図版2 主な調査地環境

## 久米島の鳥類目録 (暫定)

Check list of birds in Kume-jima, the Ryukyus.

種 名 species	状 況 status
<b>カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES</b>	
カイツブリ科 PODICIPITIDAE	
1. カイツブリ <i>Podiceps ruficollis poggei</i> (Reichenow)	R
1993/3/25, 1. 1994/12/26, 1. 銭田川	
1994/12/26, 1. 島尻のダム	
<b>ミズナギドリ目 PROCELLARIIFORMES</b>	
アホウドリ科 DIOMEDEIDAE	
2. コアホウドリ <i>Diomedea immutabilis</i> Rothschild <sup>(3)</sup>	S
1965/10, 1. 久米島沖で捕獲.	
ミズナギドリ科 PROCELLARIIDAE	
3. オオミズナギドリ <i>Calonectris leucomelas</i> (Temminck)	W
1991/8/29, 1. トランパーラ近く	
<b>ペリカン目 PELECANIFORMES</b>	
カツオドリ科 SULIDAE	
4. カツオドリ <i>Sula leucogaster plotus</i> (Forster) <sup>(7)</sup>	S
ウ科 PHALACROCORACIDAE	
5. ウミウ <i>Phalacrocorax filamentosus</i> (Temminck & Schlegel)	W
1993/3/18, 56. 1994/12/26, 42. 清水小学校前海岸	
1993/3/25, 1. 奥武島海岸. 1993/3/25, 1. 比屋定海岸	
<b>コウノトリ目 CICONIIFORMES</b>	
サギ科 ARDEIDAE	
6. リュウキュウヨシゴイ <i>Ixobrychus cinnamomeus</i> (Gmelin)	R
1991/11/26, 1. 仲地水田	
7. ゴイサギ <i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i> (Linnaeus)	T/W
1993/3/25, 2. 銭田川. 1994/12/27, 1. 儀間川	

8. ササゴイ *Butorides striatus amurensis* (Schrenck) W
9. アカガシラサギ *Ardeola bacchus* (Bonaparte)<sup>(5)</sup> T  
儀間川
10. アマサギ *Bubulcus ibis coromandus* (Boddaert) T/W  
1993/3/25, 2. 大田
11. ダイサギ (チュウダイサギ) *Egretta alba modesta* (Gray) W  
1993/3/25, 2. 銭田川. 1993/3/17, 2. 真謝海岸
12. チュウサギ *Egretta intermedia intermedia* (Wagler) W  
1991/11/27. (1). 仲地
13. コサギ *Egretta garzetta garzetta* (Linnaeus) W  
1993/3/25, 1. 銭田川.
14. クロサギ *Egretta sacra sacra* (Gmelin) R
15. アオサギ *Ardea cinerea jowyi* (Clark) W  
1993/3/25, 1. 1994/12/26, 1. 銭田川. 1994/12/26, 1. 儀間川  
1994/3/17, 12. 白瀬川河口.  
1994/3/17, 16. 1994/3/18, 31. 清水小前海岸 (一着島周辺)
16. ムラサキサギ *Ardea purpurea manilensis* Meyen W  
1994/12/26, 1. 銭田川  
コウノトリ科 CICONIIDAE
17. コウノトリ *Ciconia ciconia boyciana* Swinhoe W/A  
1993/12. 1994/6. 上阿嘉 (沖縄タイムス, 1994. 7. 4付朝刊)

### ガンカモ目 ANSERIFORMES

#### ガンカモ科 ANATIDAE

18. コハクチョウ *Cygnus columbianus jankowskii* Alpheraky<sup>(4)</sup> A
19. マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos* Linnaeus<sup>(6)</sup> W
20. カルガモ *Anas poecilorhyncha zonorhyncha* Swinhoe W  
1994/12/26, 1. 儀間川. 1994/12/26, 6. 島尻ダム
21. コガモ *Anas crecca crecca* Linnaeus W  
1993/3/25, 1. 銭田川. 1994/12/26, 12. 空港海岸道路
22. オナガガモ *Anas acuta acuta* Linnaeus W  
1994/12/27, 4. 仲地水田 (♂-1. ♀-3)
23. キンクロハジロ *Aythya fuligula* (Linnaeus) W

1994/12/26.1.空港近く海岸道路

24. スズカモ *Aythya marila mariloides* (Vigors) W

1991/11/27.1.銭田川

### ワシタカ目 FALCONIFORMES

#### ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

25. ミサゴ *Pandion haliaetus haliaetus* (Linnaeus) W

1991/11/26.1.仲地. 1991/11/26.1.具志川城

26. アカハラダカ *Accipiter soloensis* (Horsfield) T

1993/9/7, ダルマ山園地

27. ツミ *Accipiter gularis gularis* (Temminck & Schlegel) W

1994/12/27.1.山里

28. ノスリ *Buteo buteo japonicus* (Temminck & Schlegel) W

29. サシバ *Butastur indicus* (Gmelin) W/T

1994/12/27.5.比屋定海岸.

#### ハヤブサ科 FALCONIDAE

30. ハヤブサ *Falco peregrinus japonensis* Gmelin W

1994/12/27,1.仲地

31. チゴハヤブサ *Falco subbuteo subbuteo* Linnaeus A

1993/3/18,1.清水小学校前海岸

32. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus interstinctus* Horsfield W

1993/3/16,1.久米島空港.1993/3/25,1.具志川

### ツル目 GRUIFORMES

#### ミフウズラ科 TURNICIDAE

33. ミフウズラ *Turnix suscitator okinavensis* Phillips R

1994/12/27,3.比嘉

#### クイナ科 RALLIDAE

34. パン *Gallinula chloropus indica* Blyth R

1994/12/26,3.銭田川

35. オオパン *Fulica atra atra* Linnaeus W

1993/3/25,1.1994/3/17,1.銭田川

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 CHARADRIIDAE

36. コチドリ *Charadrius dubius curonicus* Gmelin W  
 1991/8/29, 1. 泊海岸干潟. 1993/3/25, 1. 真謝海岸. 1994/3/17, 1. 仲地
37. シロチドリ *Charadrius alexandrinus japonensis* R  
 1993/3/25, (1). シンリ浜. 1993/3/25, 1. 1994/3/17, 24. 真謝海岸  
 1993/3/25, 1. 比屋定海岸. 1994/12/26, 3. 1992/7/6, 1. 久米島空港草地
38. ハシボソシロチドリ *Charadrius alexandrinus alexandrinus* A  
 Linnaeus<sup>(1)</sup>
39. メダイチドリ *Charadrius mongolus stegmanni* Portenko W  
 1993/3/25, 2. 1994/3/17, 28. 真謝海岸. 1992/7/25, 1. 泊海岸
40. オオメダイチドリ *Charadrius leschnaultii* Lesson W  
 1994/3/17, 2. 真謝海岸.
41. オオチドリ *Charadrius asiaticus veredus* Gould T  
 1994/3/16, 1. 久米島空港海岸.
42. ムナグロ *Pluvialis dominica fulva* (Gmelin) W  
 1994/3/16, 52. 久米島空港海岸.
43. ダイゼン *Pluvialis squatarola* (Linnaeus) W  
 1993/3/25, 1. シンリ浜
44. タゲリ *Vanellus vanellus* (Linnaeus) W  
 1994/12/27, 2. 仲里村野球場
- シギ科 SCOLOPACIDAE
45. キョウジョシギ *Arenaria interpres interpres* (Linnaeus) T  
 1991/8/29, 1. 奥武島海岸. 1994/3/17, 17. 真謝海岸.
46. ヒバリシギ *Calidris minutilla subminuta* (Middendorff) T  
 1991/11/27, 1. 仲地
47. オジロトオネン *Calidris temminckii* (Leisler)<sup>(1)</sup> T
48. トウネン *Calidris ruficollis* (Pallas) T  
 1994/12/27, 1. 1993/3/24, 1. 真謝海岸.
49. ハマシギ *Calidris alpina sakhalina* (Vieillot) T  
 1994/12/27, 3. 1994/3/17, 3. 真謝海岸.
50. アオアシシギ *Tringa nebularia* (Gunnerus) T  
 1991/8/29, 1. 泊海岸干潟.

51. クサシギ *Tringa ochropus* Linnaeus W  
1994/3/17, 1. 仲地水田.
52. タカブシギ *Tringa glareola* Linnaeus T  
1994/3/17, 1. 仲地水田. 1993/3/25, 1. 仲地
53. キアシシギ *Tringa brevipes* (Vieillot) T  
1991/8/29, 1. 1994/12/27, 10. 泊海岸干潟.
54. イソシギ *Tringa hypoleucos* Linnaeus T  
1994/12/27, 1. 泊海岸干潟.
55. ソリハシシギ *Xenus cinereus* (Güldenstädt) T  
1991/8/29, 1. 泊海岸干潟.
56. ダイシャクシギ *Numenius arquata orientalis* Brehm T  
1993/3/25, 1. 泊干潟
57. チュウシャクシギ *Numenius phaeopus variegatus* (Scopoli) T  
1994/12/26, 1. 空港近く
58. ヤマシギ *Scolopax rusticola* Linnaeus W  
1994/12/26, 13. 阿良岳
59. アマミヤマシギ *Scolopax mira* Hartert R  
1994/12/26, 2. 阿良岳
60. タシギ *Gallinago gallinago gallinago* (Linnaeus) W  
1994/3/17, 1. 具志川村総合グラウンド近く  
1993/3/25, 1. 仲地  
カモメ科 LARIDAE
61. ウミネコ *Larus crassirostris* Vieillot W  
1994/3/17, 1. 真謝海岸
62. ベニアジサシ *Sterna dougallii bangsi* Mathews S  
1991/8/29, 1. トンバーラ.
63. エリグロアジサシ *Sterna sumatrana sumatrana* Raffles S  
1991/8/29, 1. 阿良浜海岸. 1991/8/29, 1. 奥武島海岸
64. コアジサシ *Sterna albifrons sinensis* Gmelin S  
1991/8/29, 1. 泊海岸干潟海岸  
ウミスズメ科 ALCIDAE
65. マドラウミスズメ *Brachyramphus marmoratus perdix* (Pallas)<sup>(1)</sup> W

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

66. カラスバト *Columba janthina janthina* Temminck R  
1991/2/1. 白瀬川上流. 1993/3/25, 1. 比屋定海岸林. 1992/7/25, 1. 宇江城岳.  
1992/7/25, 3. 阿良岳
67. リュウキュウキジバト *Streptopelia orientalis stimpsoni* (Stejneger) R  
(Latham)

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 CUCULIDAE

68. ホトトギス *Cuculus poliocephalus poliocephalus* Latham T  
1992/7/25, 1. 宇江城岳.

フウロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

69. コミミズク *Asio flammeus flammeus* (Pontoppidan)<sup>(1)</sup> W  
70. リュウキュウコノハズク *Otus scops elegans* (Cassin) R  
1991/11/26. 1. アーラ岳林道
71. リュウキュウアオバスク *Ninox scutulata totogo* (Momiyama) R  
1991/11/26. 1. 阿良岳林道

ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 ALCEDINIDAE

72. リュウキュウアカショウビン *Halcyon coromanda bangsi* (Oberholser) S  
1992/7/25, 1. 阿良岳. 1992/7/25, 1. 宇江城岳
73. カワセミ *Alcedo atthis* (Linnaeus) R  
1993/3/18, 1. 銭田川

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

74. ヤツガシラ *Upupa epops* Safurata Lönnbrg T  
1993/3/25, 2. 島尻. 1994/3/17, 4. 具志川村総合グラウンド.  
1994/3/17, 2. シンリ浜. 1994/3/17, 2. 北原農村振興集落センター.  
1994/3/17, 2. 儀間. 1994/3/17, 1. 西銘.

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

75. ツバメ *Hirundo rustica gutturalis* Scopoli T  
1994/3/17, 22. 銭田

76. リュウキュウツバメ *Hirundo tahitica namiyei* (Stejneger) R

セキレイ科 MOTACILIDAE

77. キセキレイ *Motacilla cinerea robusta* (Brehm) W

78. ハクセキレイ *Motacilla alba lugens* Gloger W

79. ホオジロハクセキレイ *Motacilla alba leucopsis* Gould W

1994/3/18. 50. 具志川村総合グラウンド. 1994/3/18. 2. 真謝

80. マミジロタヒバリ *Anthus novaseelandiae sinensis* (Bonaparte) W

1993/3/25. 1. 1992/7/56. 1. 久米島空港草地

81. ビンズイ *Anthus hodgsoni hodgsoni* Richmond<sup>(1)</sup> W

1993/3/18. 1. ダルマ山園地

82. ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus* (Pallas)<sup>(1)(2)</sup> T

1994/9/13. 1. ダルマ山園地

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

83. サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* (Raffles) W

1994/12/27. 1. 仲地水田

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

84. エゾヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis hensoni* Stejneger<sup>(1)</sup> A

85. リュウキュウヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis pryeri* Stejneger R

モズ科 LANIIDAE

86. モズ *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel W

1994/3/16, 1. 比屋定海岸. 1993/3/25, 1. 奥武島

87. アカモズ *Lanius cristatus superciliosus* Latham T

レンジャク科 BOMBYCILLIDAE

88. ヒレンジャク *Bombycilla japonica* (siebold)<sup>(4)</sup> W

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

89. アカヒゲの一種 *Erithacus* sp. T/W

1994/9/17, 1. ダルマ山園地

90. ルリビタキ *Tarsiger cyanurus cyanurus* (Pallas)<sup>(1)(2)</sup> W  
 91. ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus auroreus* (Pallas)<sup>(2)</sup> W  
 1994/3/16, 1. 銭田川. 1993/3/25, 4. 比屋定海岸  
 92. イソヒヨドリ *Monticola solitarius philippensis* (Müller) R  
 93. シロハラ *Turdus pallidus* Gmlin W  
 94. アカハラ *Turdus chrysolaus* Temminck W  
 1994/3/17, 2. 仲村渠  
 95. ツグミ *Turdus naumanni eunomus* Temminck W  
 1994/3/17, 20. シンリ浜  
 96. ハチジョウツグミ *Turdus naumanni naumanni* Temminck W  
 1994/3/17, 1. シンリ浜  
 ウグイス亜科 SYLVIINAE  
 97. リュウキュウウグイス *Cettia diphone riukiensis* (Kuroda) R  
 98. セッカ *Cisticola juncidis brunniceps* (Temminck & Schlegel) R  
 ヒタキ亜科 MUSCICAPINE  
 99. エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (Swinhoe) T  
 1993/9/10, 1. ダルマ山園地  
 100. オジロビタキ *Ficedula parva albicilla* (Pallas) W  
 カササギヒタキ亜科 MONARCHINAE  
 101. リュウキュウサンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata illex* Bangs S  
 メジロ科 ZOSTEROPIDAE  
 102. リュウキュウメジロ *Zosterops japonica loochooensis* Tristram R  
 103. シマメジロ *Zosterops jasponica insularis* Ogawa<sup>(2)</sup> A  
 ホオジロ科 EMBERIZIDAE  
 104. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans elegans* Temminck W  
 1991/11/26. 1. ナゴー池  
 105. アオジ *Emberiza spodocephala personata* Temminck W  
 1994/12/27. 2. 宇江城岳  
 106. カシラダカ *Emberiza rustica latifascia* Portenko W  
 1994/3/18, 3. 北原  
 107. クロジ *Emberiza variabilis* Temminck<sup>(1)</sup> W  
 アトリ科 FRINGILLIDAE  
 108. アトリ *Fringilla montifringilla* Linnaeus<sup>(6)</sup> W

109. マヒワ *Carduelis spinus* (Linnaeus) W  
 1993/3/25, 10. 奥武島
110. シメ *Coccothraustes coccothraustes japonicus* Temminck & schlegel<sup>(6)</sup> W  
 ハタオリドリ科 PLOCEIDAE
111. スズメ *Passer montanus saturatus* Stejneger R  
 ムクドリ科 STURNIDAE
112. ムクドリ *Sturnus cineraceus* Temminck W  
 1994/3/17, 42. 大原. 1994/12/26, 20. 仲里村野球場
113. ホシムクドリ *Sturnus vulgaris* W  
 1994/12/26, 1. 仲里村野球場  
 カラス科 CORVIDAE
114. リュウキュウハシブトガラス *Corvus macrorhynchos connectens* R  
 Stresemann  
 カエデチョウ科 ESTRILDIDAE
115. アミハラ *Lonchura punctulata* I  
 1993/9/10, 1. ダルマ山園地

---

凡例：1. 種名の扱いと配列は日本鳥学会（1974）及び琉球新報社編（1983）にしたがった。

2. 状況はR：留鳥，S：夏鳥，T：旅鳥，W：冬鳥，A：迷鳥，I：帰化種とし、その種別は琉球新報社編（1983）及び沖縄野鳥研究会（1993）にしたがった。

3. 引用文献等

(1)池原(1974), (2)岡田ら(1959), (3)高良・黒田(1969), (4)仲吉列雄私信, (5)大城亀信私信,  
 (6)佐藤文保私信, (7)比嘉邦昭私信